

介護の仕事に

就いて

支援員 田口翔太

僕は今まで、支援員はただ利用者様のお世話をするだけだと思っていましたが、実際に支援員として介護の仕事をするようになると、思っていたのとは違い大変な事が良くわかりました。

ただただ利用者様のお世話をするのではなく、排泄支援や食事の介助など今までしたことのない事ばかりでした。

排泄支援は、何から始めたらいいのかもわからず、オムツの交換をすれば終わ리だと思っていました。排泄支援の手順を教わると、オムツの当て方が悪いと尿が漏れ、利用者様に不快な思いをさせてしまうことになるため慎重に行いました。また、排泄支援時に皮膚の状態を観察することも大切

なことのひとつですが、皮膚を見てもどこが変なのかわからずとても難しく大変でした。

食事の場面では、食事介助は利用者様の食事の様子を見守っているだけだと思っていました。が、実際にはご自分で食事を食べることができない利用者様もいらつしやるため、口まで食事を運んで介助しますが、むせてしまう方もいるため、ひと口ひと口確認しながらゆっくり利用者様に合わせて介助するなど注意しないといけないことが沢山あります。

利用者様とのコミュニケーションの対応もとても難しく、利用者様が何を言いたいのか、何をしたいのかを理解できず戸惑ったり、反対に自分の考えをどう伝えたらいいのか日々悩んでいます。

介護の仕事が思っていた以上に大変なので、自分自身の気持ちが折れそうにな

りましたが、先輩方から学ぶ事が沢山あり、毎日勉強しているうちに介護の仕事は辛いことも多いけれど、様々な人たちと関わりが持てて楽しさも少しわかってきました。

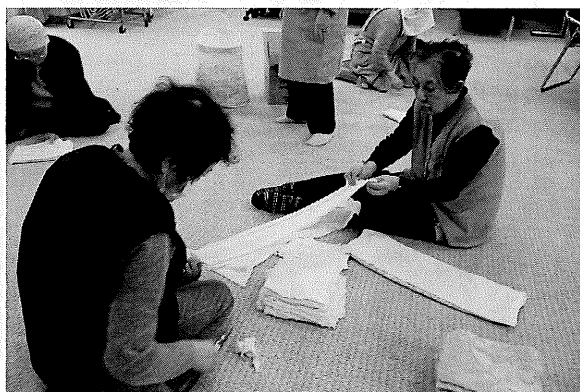
これからも先輩方から色々学び、利用者様の気持ちを理解できるよう介護の仕事を続けて行きたいと思っていますのでよろしくお願い致します。



関電、中電による照明器具の点検掃除



陶芸教室がはじまりました



介護布作りのお手伝い